

アルミニウム製庇 (RSバイザー RS-C型) 施工要領

このたびは、ダイケンアルミニウム製庇RSバイザーをご採用いただき、ありがとうございます。

アルミニウム製庇RSバイザーは、遮光性、遮熱性、防雨性、意匠性の目的で使用されるものです。

確実な施工を行い、製品の安全を確保するため、施工前にこの「施工要領」を必ずお読みください。

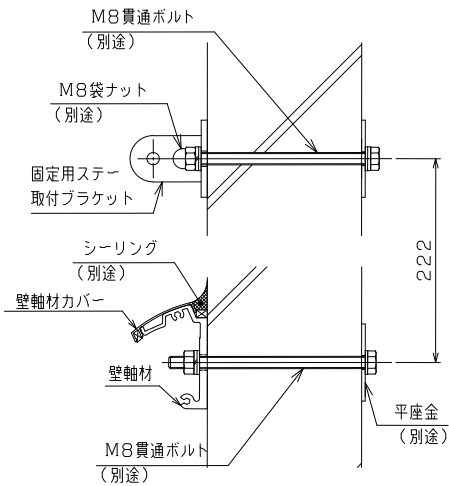
⚠ 注 意

転落の恐れがありますので、庇に乗ったりぶらさがったりしないでください。
庇が破損する恐れがありますので、積雪80cmを超える前に必ず雪降ろしを行ってください

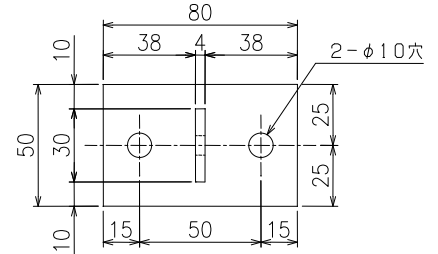
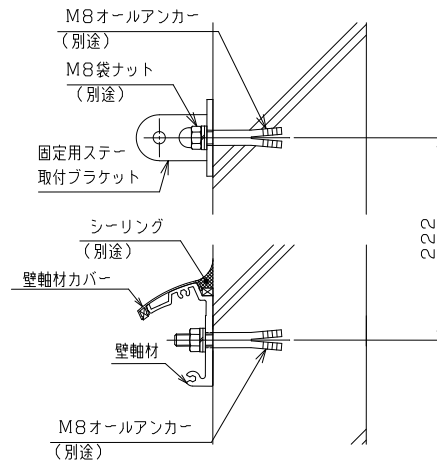


壁側納まり図（断面）

ALC下地に取り付ける場合

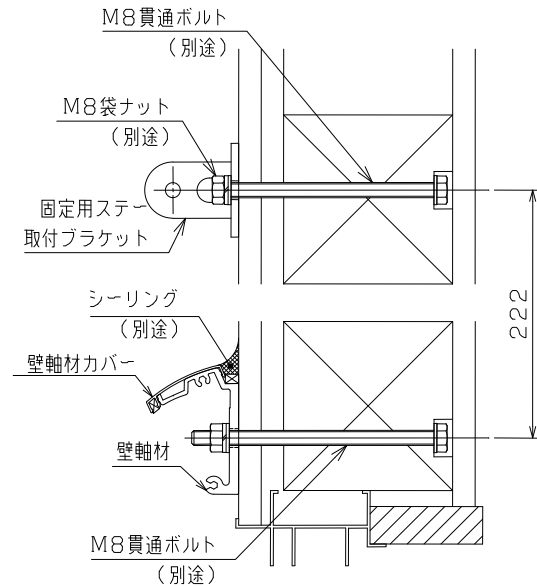
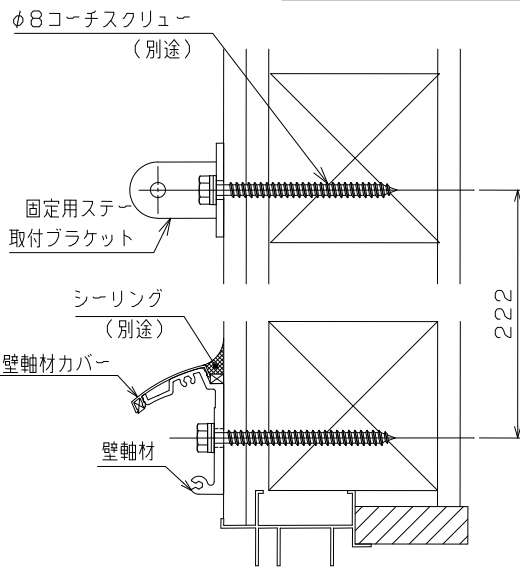


コンクリート下地に取り付ける場合

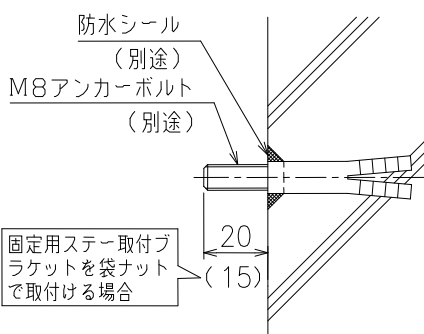


固定用ステー取付
ブラケット詳細図

木造下地に取り付ける場合



アンカー取付要領



アンカーボルトは、下地から 20mm 飛び出すようにしてください。但し、**固定用ステー取付ブラケットを袋ナットで取付ける場合は、下地から 15mm 飛び出すようにしてください。**内部への浸水を防ぐためにアンカーボルトの周りに防水シールを施してください。貫通ボルトを使用する際も同様に防水シールを施し、雨水が内部に浸入しないようにしてください。

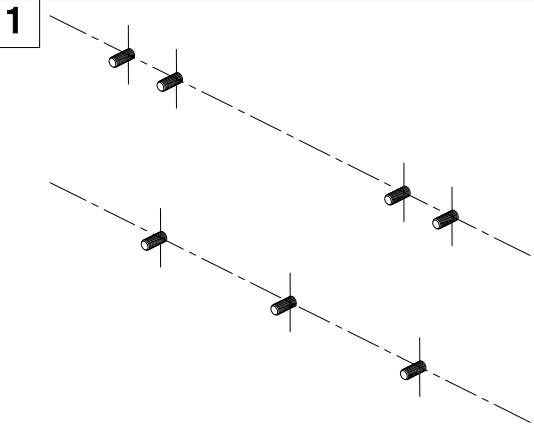
⚠ 注意

アンカーボルトは有効長さが、仕上モルタルやタイル等の仕上材の厚さを含めず、躯体部分に確実に入るようにしてください。

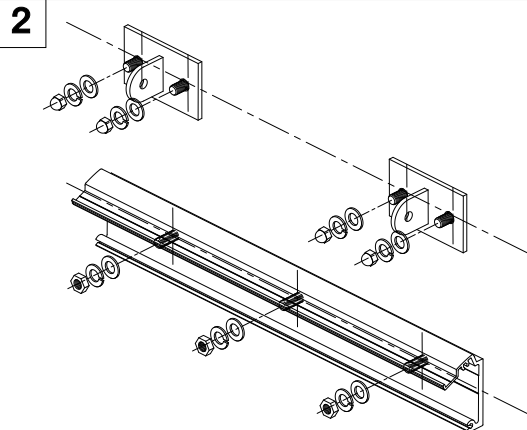
アンカー取付位置

アンカーボルトの取付位置は、別紙図面にてご確認ください。

施工手順



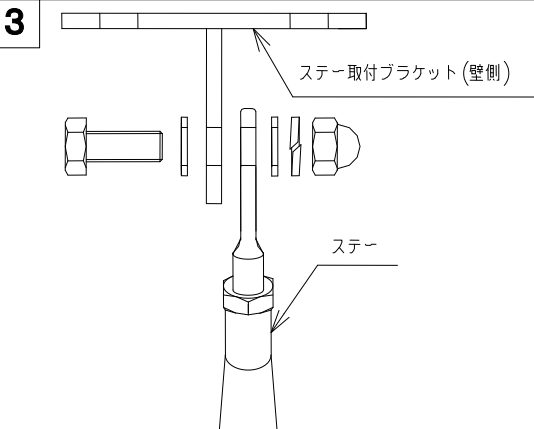
アンカー図に基づき墨出しを行い、アンカー（M8・別途）を取付けます。（アンカーは壁によって異なります。）



壁軸材・ステー取付ブラケットを取付けます。**取付面の通りが出ていない場合は、壁軸材の裏側にスペーサー（別途）を入れて調整してください。通りが出てないと庇本体が、取付れない場合があります。**壁軸材のレベル出しは確実に行ってください。

⚠ 注意

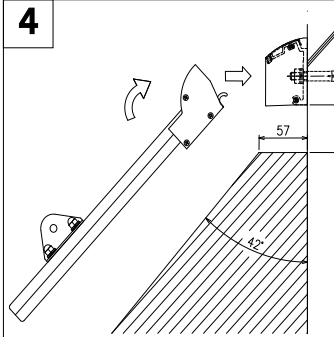
壁軸材及び固定用ステー取付ブラケットは、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。



あらかじめ庇本体の角度を決めておき、固定用ステーを上図のように取付けます。この時、インパクトで締付けると焼付けを起こす恐れがありますので注意して下さい。

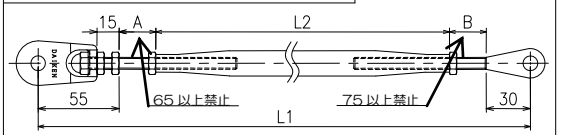
⚠ 注意

庇本体の角度は、固定用ステーの長さで決まります。ステー取付の際は、取付金具の調整範囲内を取付角度にあった長さに調整し、付属の六角ボルトで固定して下さい。この時、六角ボルトは、根元まで確実に締めてください。落下すると事故の原因になります。

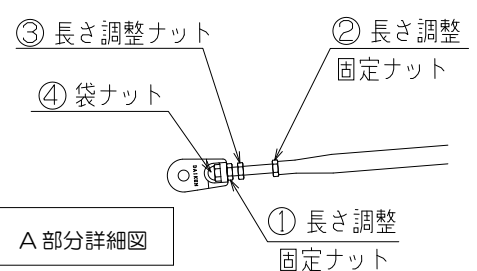
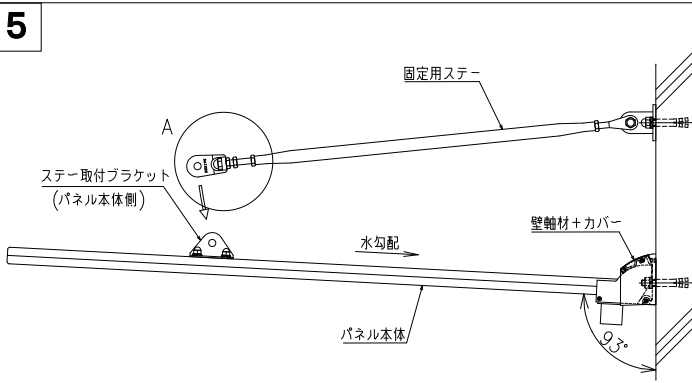


図のように、庇本体を壁軸材に取付け、回転させます。その際、斜線部に物があると庇と干渉するため庇を先に取付けてください。

固定用ステー金具長さ調整範囲



D	角度	L1	L2	A	B
600~750	93°~94°	421~417	290	23~21	23~21
751~1000	93°~94°	603~599	475	21~19	22~20

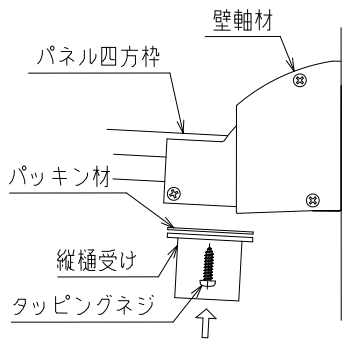


⚠ 注意

固定用ステーは、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。

ステー取付ブラケットと固定用ステーを付属のボルト・ナットで取付けます。この時、インパクトで締付けると焼付けを起こす恐れがありますので注意して下さい。ステー長さ微調整は、長さ調整固定ナット①、②をゆるめ、長さ調整ナットを回し微調整できます。**調整後はステーの袋ナット④にボルトがしっかり入っていることを確認し、長さ調整固定ナット①、②を確実に締付けて下さい。この時、長さ調整固定ナットがゆるむ原因となりますので、長さ調整固定ナット③が回らない様に注意して下さい。**

6

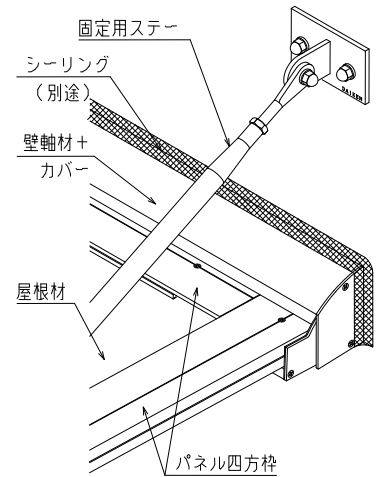


庇の水下側に設けてある水抜き穴の位置に合うように下穴を開けてシール材（別途）を下穴に注入し、パッキン材・タテ樋受けを付属のタッピングねじで取付けます。

注意

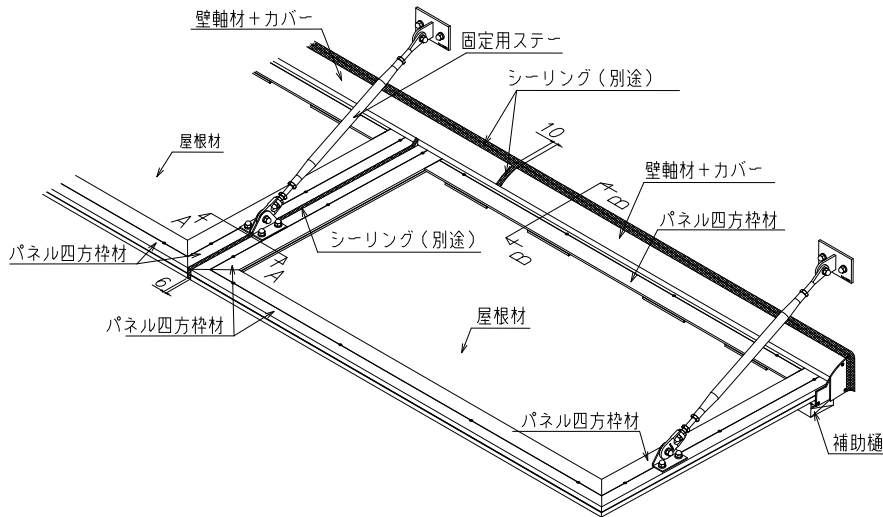
タテ樋受けは、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。

7



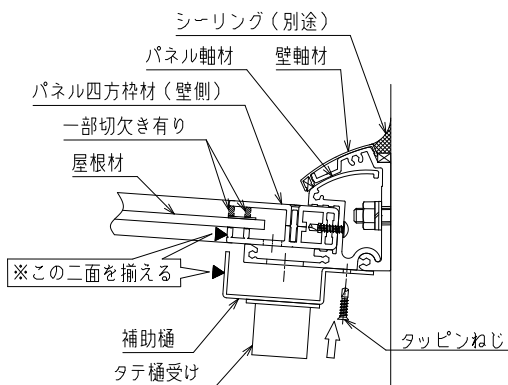
庇本体取付後、壁軸材上部・端部に防水シーリング（別途）を施します。

8

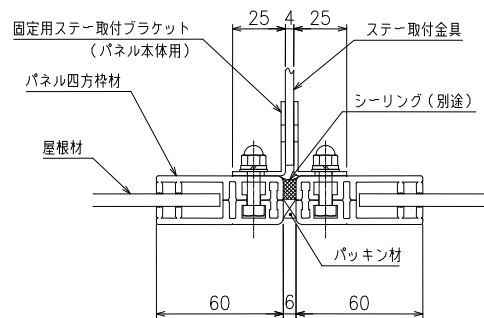


注意

補助樋は、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。



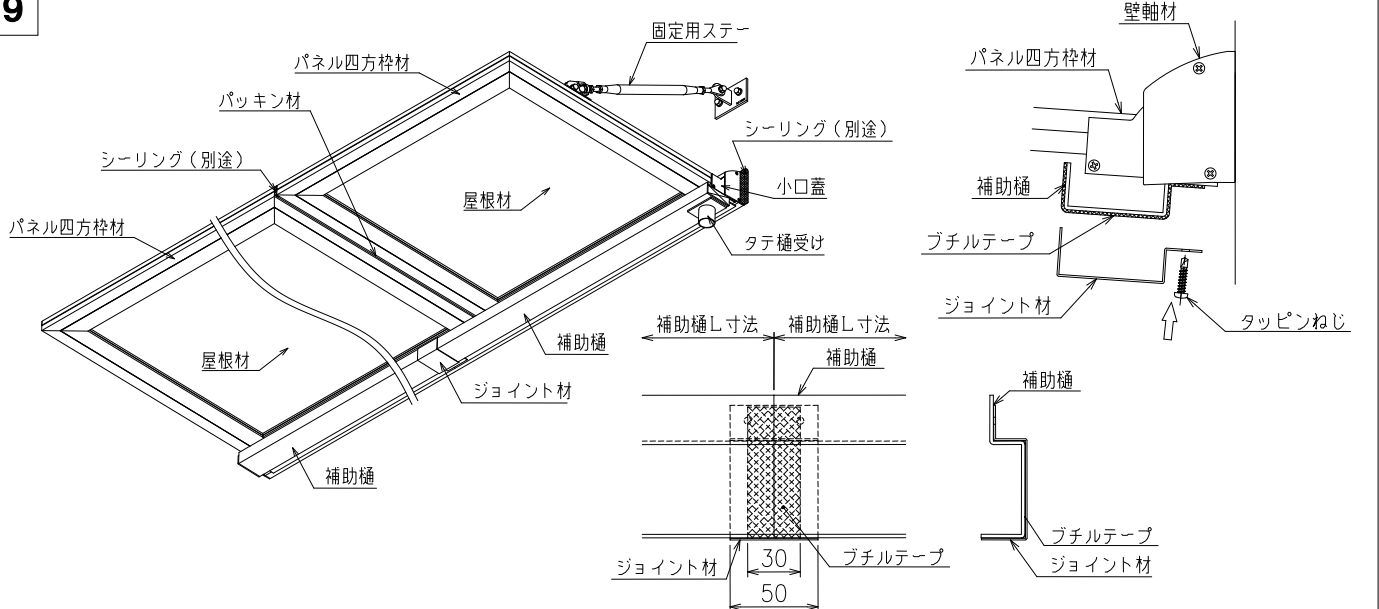
B-B断面詳細図



A-A断面詳細図

庇本体、壁軸材（カバー材）が2枚割り以上になる場合は補助樋が付き、基本的に上図のような納まり（参考）になります。補助樋は上図のようにパネル四方枠材（壁側）と面が揃うようにセットし、付属のタッピングねじで取付けます。

9



補助樋が2本つなぎ以上になる場合は補助樋のつなぎ目にジョイント材がつき、基本的に上図のような納まり（参考）になります。上図のように補助樋のつなぎ目にブチルテープを貼り付けた後、ジョイント材を付属のタッピンねじで取付けます。

注意:パッキン材には、クロロプレンゴムを使用しています。シーリング時にシール材により化学反応を起こしシール材が変色する場合がありますのでご注意ください。変色の対処としては、シーリング時にパッキン材のクロロプレンゴムをマスキングしてシーリング材と接触させないようにして下さい。

●改良のため予告なく商品の仕様を一部変更する場合があります。



株式
会社

ダイケン

ホームページアドレス <http://www.daiken.ne.jp>

本社 〒532-0033 大阪市淀川区新高2丁目7番13号

電話(06)6392-5321(代表)

札幌支店	(011)232-3017(代)	千葉営業所	(03)3633-6552(代)
東京支店	(03)3633-6551(代)	神奈川営業所	(045)316-3901(代)
名古屋支店	(0586)77-7561(代)	静岡営業所	(054)237-5375(代)
大阪支店	(06)6392-5556(代)	岡山営業所	(086)297-9100(代)
盛岡営業所	(019)648-2220(代)	広島営業所	(082)294-9181(代)
仙台営業所	(022)235-4380(代)	福岡営業所	(092)935-9731(代)
埼玉営業所	(048)667-9381(代)	東京西出張所	(042)567-1338(代)